

吉野林業

絵ことば  
ブツグ

〜森から貯木まで〜

## はじめに

「やまいきさん」「ハラオシさん」・・・吉野林業の中心地である、奈良県吉野地方の木材生産に使われる言葉は、この地特有のものが多くあります。

言葉の背景には、500年を超える人工造林の歴史があり、その歴史を支えてきた知恵や工夫があります。木を植え、育て、伐り、運び、製材し、製品を届けるという流れを確立し、林業を続けてきました。

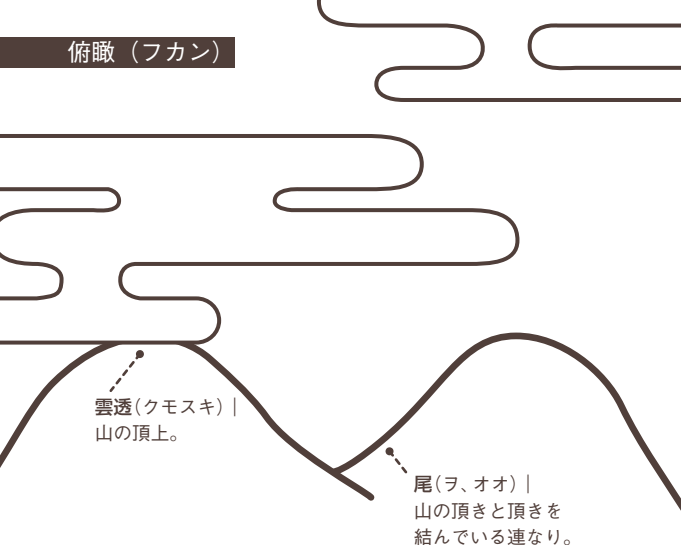
そうして吉野で生まれ育った木々は、世代を超えて、多くの人の手を通じて、私たちの暮らしに届きます。

このリーフレットは、吉野材の生産現場である「森」と、「製材」の世界を、言葉でたどるガイドブックとして製作しました。

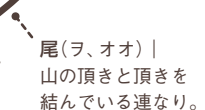
吉野の木がどの様に森で育てられ、どのような工程を経て私たちの元へとやって来るのか、どうぞ、たどってみてください。

### 表記について

旧字体の表記は現代仮名遣いにならない適宜書き換えました  
漢字の表記がいくつかあるものはカタカナを振りました



雲透(クモスキ) |  
山の頂上。



尾(ヲ、オオ) |  
山の頂きと頂きを  
結んでいる連なり。  
尾根。

## 目次

### 森編

- 02 俯瞰
- 04 山の中
- 06 撫育
- 07 山の成長
- 08 山守
- 09 立木調査
- 10 伐り
- 12 出し

### 製材編

- 14 原木市
- 15 製品市、背板市、単板・ブリッチ市
- 16 製材
- 18 木どり
- 20 木の見方
- 21 木の水分
- 22 製品の種類
- 23 木の利用
- 24 刻印、記号、売付票
- 25 木を測る、指数字

タチアガリ | 頂上付近の急な傾斜地。

タワ | 山の尾根が たわんだようにみえるところ。クボンダともいう。  
迫(サコ) | 谷。

抜け | 土砂崩れの跡。

陰地(オンチ) | 北・西向き土地。または日が当たらないところ。杉を植えるに適した肥えた土地が多い。

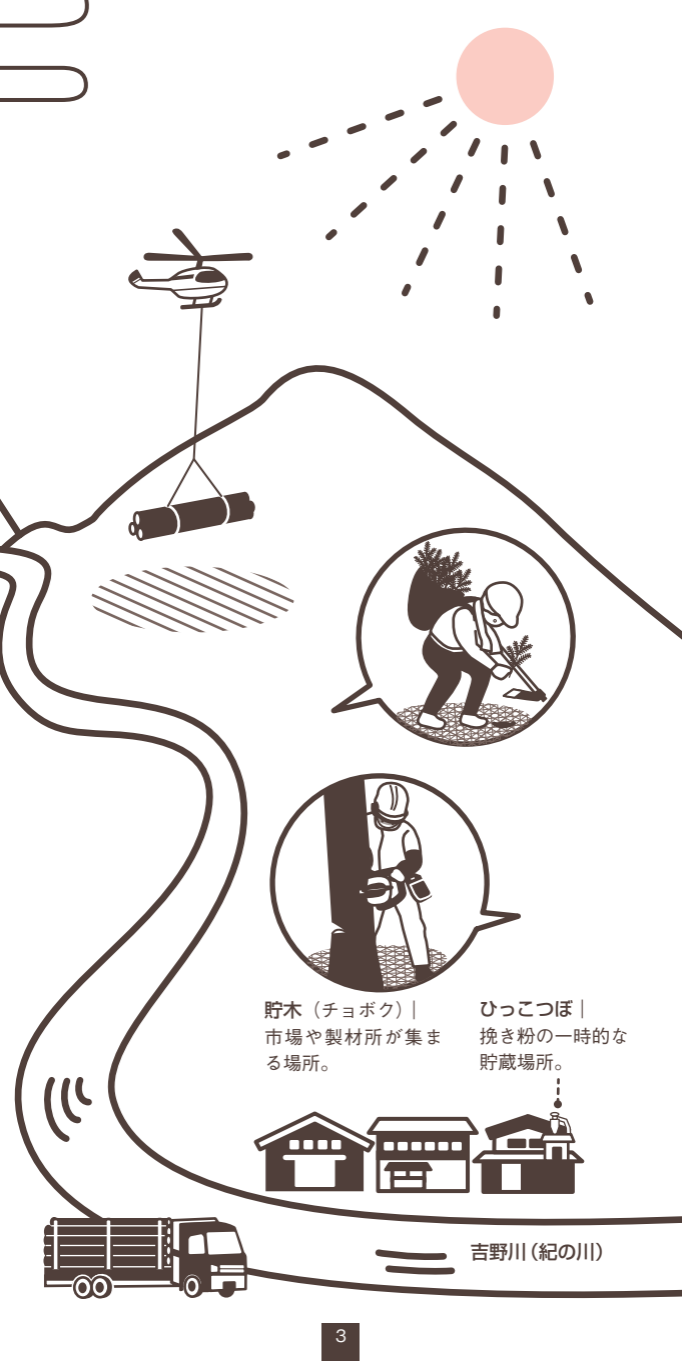
日向(ヒナタ、ヒムキ) | 南・東向き土地。または日の当るところ。

アツイ | 植林本数が多く、密生している山林の状態。

ウスイ | 植林本数が少ない、もしくは立木の本数が少ない山林の状態。

横領(オーリョー) | 村、字、谷など地域を表す面積や範囲のこと。

ダイオオ | 大きな尾根のこと。



貯木 (チョボク) |  
市場や製材所が集まる場所。

ひっこつぼ |  
挽き粉の一時的な貯蔵場所。



吉野川 (紀の川)

空洞(ウト) |

老齡や傷で腐り、空洞になった木。樹幹を叩くと乾いた音がする。ウトギともいう。

蟬肌(セミハダ) |

枝打ちや枝落ちの跡。

もめ割(モメワレ) |

表面に縦割れがあり、内部も割れている傷木。風や凍裂などが原因。年輪にそって割れる場合が多く、色が悪い。イテワレ、ユリワレともいう。

シタコ |

隣木に圧せられて成長の余地のない木。落ち木、ローズともいう。

ダズ | 出来の悪い立木。伐採した木の枝葉などクズのこと。

鉢巻落し(ハチマキオトシ) | 丈の長い伸びの良い立木が林立していること。見上げると鉢巻を落とすという意味からきている。

ホラクリヤマ | 放置林。

捻木(ネジキ) | 右または左に捻れた木。土質などに関係なく実生苗の性質上生じ、材質が悪い。

ヒデンプシ | 木の性質で外皮をつきぬけ、薔薇の針のような小さな突起ができること。針木、カイセンブシともいう。

ハチクライ | 木肌が鉢のつついたような形状の木。

シャレ | 枯木(カレボク)の残っている硬い部分のこと。ジンともいう。



エダバンジャク |  
枝の多い木。

片枝  
(カタエダ) |  
片方にだけ枝  
のある木。

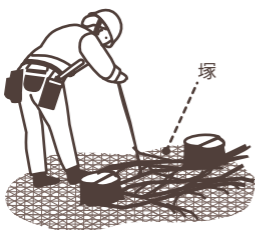
一の枝  
(イチノエダ)

テッポウダイ |  
根元が曲がった木。雪害  
にかかった木に多くみ  
られる。

辺り木(ヘリキ) |  
境界や道のへりにあ  
る木。

マミ

アテ



地明(ジアケ) | 雑草木等取り除き、焼却する作業。地拵え(ジゴシラエ)ともいう。

塚(ツカ) | 地明で刈り取った雑草木を積み重ねたもの。焼くか、その間に植林する。

火入れ(ヒイレ) | 塚にしたものを焼くこと。雪雨の時にやる。

植え付け(ウエツケ) | 植林のこと。春植え、梅雨植え、秋植えがある。

イチネンコ | 一年生の苗。

間植(マウエ) | 補植。植え付けたところに、枯れなどであいた部分に苗を植えること。

下草刈り(シタクサカリ) | 苗の生長の邪魔をする雑草木を刈りとること。

一番刈(イチバンカリ) | 植付地の下草を秋までに二度刈る場合の一回目の下草刈りのこと。二回目を二番刈りという。

坪刈(ツボガリ) | 苗木の周辺のみ雑草木を刈ること。

修理(シューリ) | 下枝をはらい、適度に立木を抜き伐りして、若い山林の手入れを行うこと。

紐打(ヒモウチ) | ハシゴを使わずに届く高さまでの枝を打ち払うこと。

間伐(カンバツ) | 生長に伴って、込み過ぎた立木を一部抜き伐りすること。

初選り(ウイスグリ) | 一回目の間伐。一番伐り。ウイギリともいう。

除伐(ジョバツ) | 山林を適切な状態に保つよう木を伐取ること。

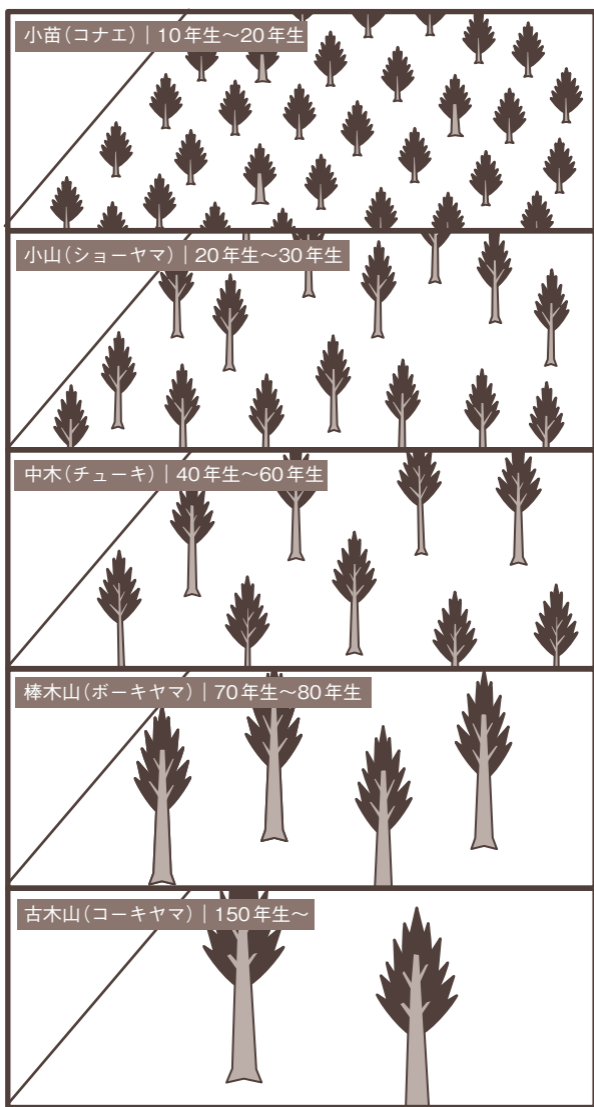
捨伐(ステギリ) | 木材として利用する価値のない木を伐取ること。

劣樹伐(ローズギリ) | 生長が見込めない木を伐取ること。

茄子伐(ナスビギリ) | 優良材より伐ること。択伐。ナスは大きいものから収穫することからこういわれる。



## 山の成長



間伐は単に「木を伐って光が入るように空間を設ける」ことではなく、全体の山の成長具合やバランスを考えながら、それぞれの木の成長を整える作業のことを指す。間伐した木は、利用するために搬出する。



## 山守(ヤマモリ)

村外の山林所有者が山林所在の地域住民の中から信用のある者を選んで山守として保護管理を委託した人のこと。この管理体制を山守制度という。

身拵(ミゴシラエ) |  
山仕事に行く時の身支度。

メンツ | 弁当箱。



ナタ | 刃渡りの長い刃物。ヨキ、ノコとともに山仕事の必需品。

山行き(ヤマイキ) | 林業従事者。

マワシガマ | 木の皮を採取するために樹幹に回すように切り込みをいれるカマ。

ケズリガマ | 木材を乾燥させるために皮を剥ぎ取る道具。

ハグツ | 刃にかぶせる細紐を編んで作ったカバー。

山旦那(ヤマダンナ) | 村外の山林所有者を山方よりいう言葉。

山守賃(ヤマモリチン) | 山林所有者から支払われる山守料。

守頭(シュツト) | 山林管理を代行する山守の代表者。

一工(イック) | 山仕事の労働単位で、朝～夕方のこと。

半工(ハング) | 山仕事の労働単位で、半日のこと。

日雇賃(ヒヨチン) | 山仕事の日当のこと。

日雇(ヒヨ) | 日雇い林業従事者のこと。

## 立木調査(リュウボクチョウサ)

伐って売る材の材積や等級等を調べること。

### マワシツナ |

分胴を投げて立木の周囲を測るメジャー。尺縄(サシナワ)ともいう。

### 指し廻し(サシマワシ) |

伐採木の周囲を測る調査のこと。

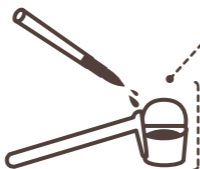


帳合(チョーアイ) |  
伐採木の調査記帳を  
すること。

刻印(コクイン) |  
伐採する木に打ち込む印。

刻印壺(コクインツボ) |  
墨つぼ。刻印を打つときに  
使う。

矢立(ヤタテ) |  
刻印壺に筆筒を付け、携帯  
できるようにしたもの。



歩口(ブグチ) | 地上権山林の地代のこと。ヤマネング、ネングともいう。皆伐または間伐の売上に対して支払う。

サシナレ | 伐採木調査で計算した樹幹の平均直径のこと。

積(ツモリ) | 材積および価格の計算。またその価格のこと。見積もりともいう。

山手(ヤマテ) | 山元立木価格。

売落(ウリオトシ) | 材木市場でついた価格。

引合(ヒキアイ) | 山林売買の折衝。主に間伐または皆伐予定立木の商談のこと。

伐り(キリ) 伐採のこと

滑車  
(カッシャ)

ほーほい |  
スタートの合図。

株

チェーンソー

追(オイ) |  
受の反対側から入れる  
切り口のこと。

受(ウケ) |  
木を倒す方向に入れる  
切り口のこと。

ぱーん |  
手を離す合図。

おーい |  
ストップの合図。

ほーつぼー |  
抜倒する木が目標へびたりと倒れた時の合図。

登伐(ノボシギリ) |  
山の傾斜に沿って穂先を上方に倒す伐採方法。

逆伐(サカギリ) |  
穂先を下方に伐り倒す伐採方法。

チルホール

書付(カキツケ) | 山主名、年月日、山守名など山を見回った記録を木に墨で書くこと。

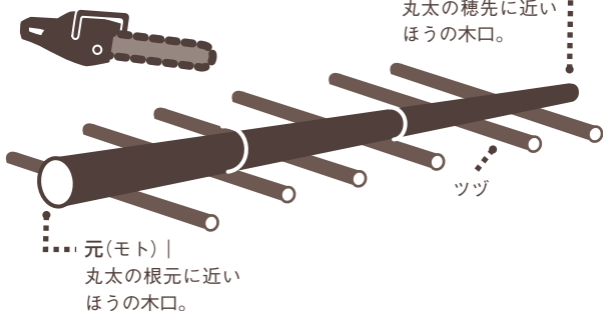
立木(タテキ) | 皆伐のときに山の目印等として境界に残した優良木。残し木。

太郎木(タローギ) | 山林中の最優良木。最も太い木。大将木(タイショーギ)、頭木(カシラギ)、一番木ともいう。

際面(サイメン) | 隣山との境界のこと。

平成二十九年  
三月二十日  
薪割  
主人

出しの準備



**山集(ヤマアツメ) |**  
木材を搬出するための伐採現場での集材作業。

**先山(サキヤマ) |**  
伐採した木を現場で一定の長さに切ること。「小切(コギリ)」ともいう。

**元返し(モトガエシ) |**  
伐採した木の利用できない悪い根元部分を切り落とすこと。

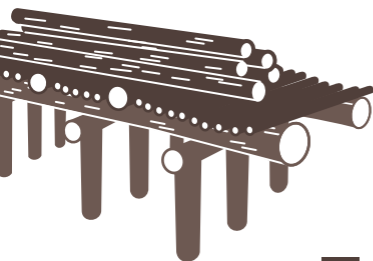
**元玉(モトダマ) |**  
伐採した木の根元から一定の長さに切った一番目の丸太。「一番玉」ともいう。



**ハサミザシ |**  
木材を挟んで木口の直径を測る道具。



**トビ |**  
丸太の出材作業に使う道具。



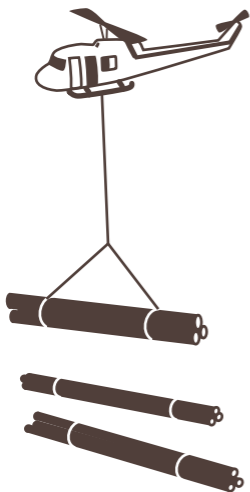
**盤台(バンダイ) |**  
架線を用いて山土場まで木材を運搬する際に、木材を集積するための丸太で組んだ構造物。



環引(クワンビキ) |  
環を打ちこみ短い綱をつけて人  
力により木材を引く搬出方法。

環(トチクワン) |  
丸太を綱で引っ張って出材する  
ために丸太に打ち込む金具。

出し



ヘリ集材(ヘリシュウザイ) |  
ヘリコプターで木を吊り上げて  
出材すること。

ヘリポート |  
ヘリコプターで出材した丸太を  
降ろすところ。

架線集材(カセンシュウザイ) |  
ワイヤーロープを空中に張って  
組み立てた集材装置を使って材  
を出材すること。

カタギ |  
肩で担いで出材すること。

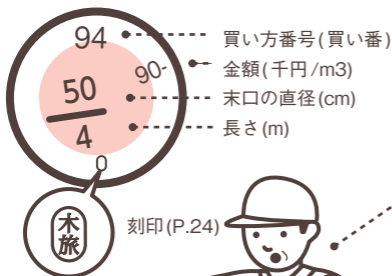
土場(ドバ) |  
木材を一時積んでおくところ。

原木市場へ



# 原木市

山から出た原木の市場。競り落とすと買い方の番号が呼ばれ、丸太の木口に買い方番号が書かれる。



買い方のかぶる帽子  
買い番号が記される

選木(センボク) |  
200年以上で元末  
同大の良質の杉の  
丸太。



振り子(フリコ) |  
競りを采配する人。市  
の主役。振り子が上手  
にふると、買い方も盛  
り上がる。

コアゲ |  
競り落とされた材は  
購入者のもとに運ば  
れる。それを「コアゲ」  
という。

コウタ、  
オトシタ |  
競り落とした

買い方(カイカタ) |  
買う人。各々買い方  
番号を持つ。

モトオチ、  
モトニナッテイル |  
落札されずに  
残っていること。

## 製品市

原木を加工した品(例:柱)を売る市場。競り落とされるとウグイス(P.24)に買い方番号が記載される。

浜(ハマ) |

荷主が製品を出す場所。

荷主(ニヌシ) |

製品を市に出す人。市で自分の製品がどれくらいの金額で落札されるか見に来る人もいる。

※荷主、買い方、どちらにも製材の人がいる。

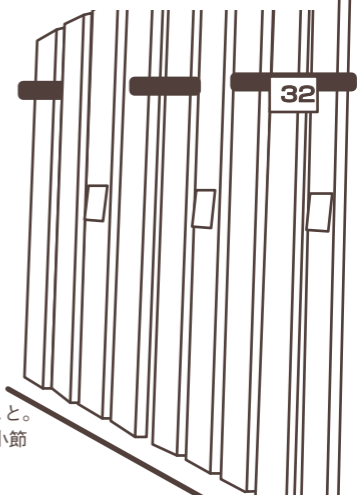
浜問屋(ハマドンヤ) |

市場のこと。浜をたくさん持ち、荷主に浜を貸して市を行う会社。

キイテル |

無節や上小節(P.22)など役物のこと。

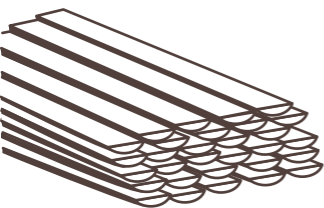
例)三面きいてる→三面無節や上小節



## 背板市

材を挽いて後にでる背板を売る市場。売り買いされた背板は、主に割り箸に加工される。吉野らしい市場の一つ。

(※平成30年4月に背板市は廃止)



背板(セイタ) |

丸太から板や柱をとった残りの部分。「コワ」ともいう。

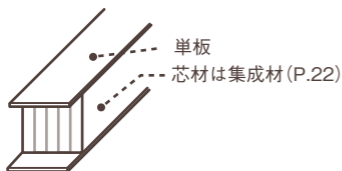


## 単板・フリッチ市

単板とフリッチ材に特化した市場。

単板(タンバン) |

集成材等の化粧部分(見える部分)に張る薄くスライスした板。



フリッチ材 |

単板をつくるための材。一番玉で枝のない銘木が選ばれる。





## 製材(セイザイ)

原木から柱、梁、フローリングや天井板などの製品を作り出す作業。

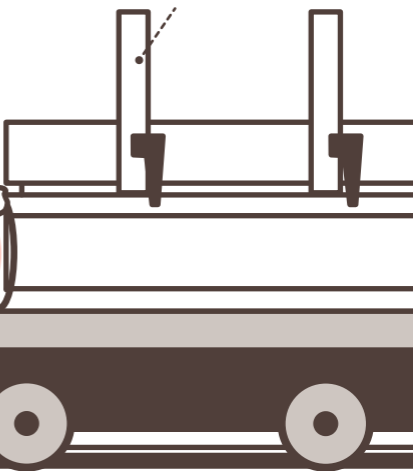
### ハナトリ |

ハラオシさんが送った木を受け取る人。



### 送材車(ソウザイシャ) |

丸太または半製品を車上の台に固定し、帯鋸に向かってレール上を移動して一定の厚さに製材する装置。台車。



← 台車の進行方向

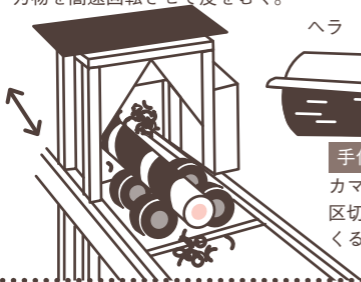
## 皮むき

製材機で木を挽く前に皮むきを行う。手作業と機械の2種類の方法がある。

### 機械

#### 皮むき機(カットバーカー式) |

刃物を高速回転させて皮をむく。



ヘラ

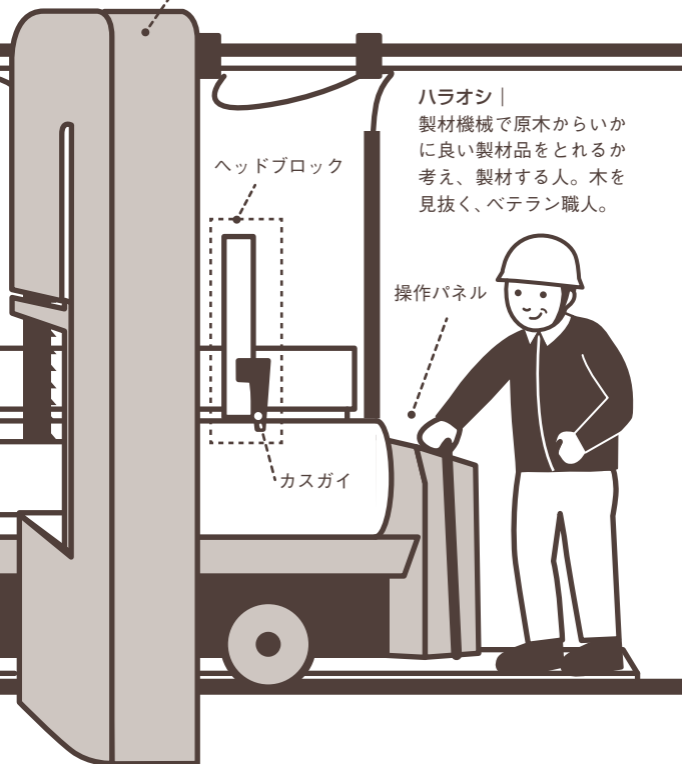
カマ



### 手作業

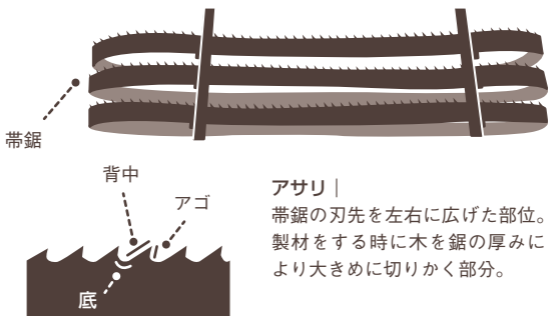
カマを用いて1m間隔で縦に区切りをつけ、ヘラで皮をめくるようにむく。

帯鋸製材機(オビノコセイザイキ) |  
帯状の鋸を高速回転させ、木を挽く機械。



ハラオシ |  
製材機械で原木からいかに良い製材品をとれるか考え、製材する人。木を見抜く、ベテラン職人。

目立て(メタテ) 木を挽く帯鋸の切れ味を調整すること。



アサリ |  
帯鋸の刃先を左右に広げた部位。  
製材をする時に木を鋸の厚みにより大きめに切りかく部分。

木どりとは、無駄な材を残さず、それぞれの木が持つ魅力を引き出す製品を採材すること。以下は一例。

## 目合い (メアイ) |

年輪のこと。年輪が芯から均等なことを「目合いがいい」という。反対に年輪の間隔がひろいものを「目荒 (メアラ)」という。

## 形成層 (ケイセイソウ) |

樹木は樹皮と木質の部分にわかれ、その境界の部分を形成層という。この部分で細胞分裂を行い、木は生長する。

## 白線帯 (ハクセンタイ) |

白太と赤身の境目の部分。水分を通しにくいとされている。

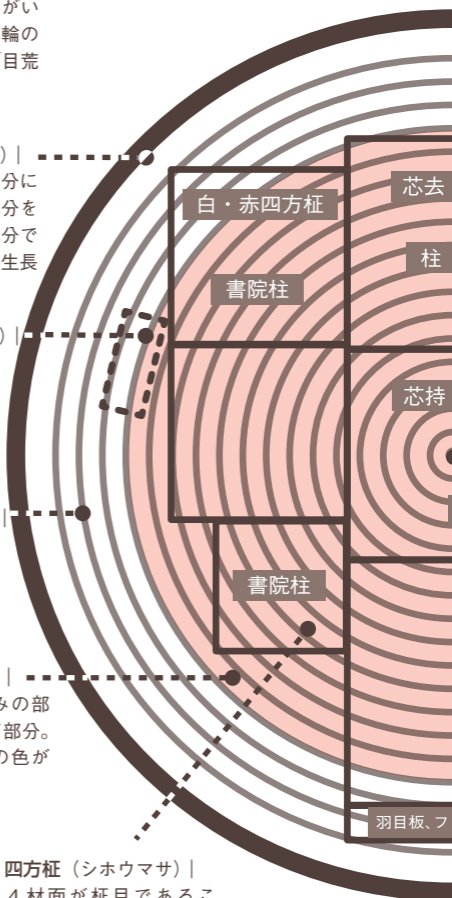
## 白太 (シラタ) (辺材) |

外側の白い部分。  
コワの木皮部。

白太の多いことを「ヤセが深い」という。

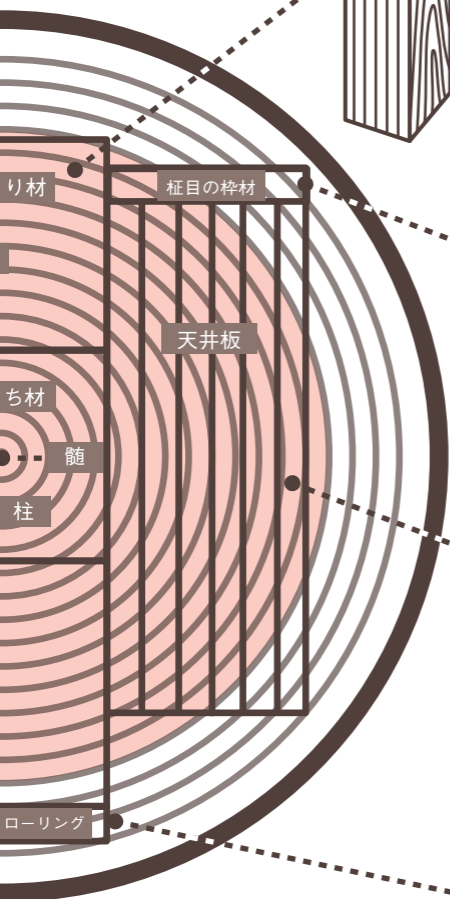
## 赤身 (アカミ) (心材) |

赤い部分のこと。赤みの部分。細胞として死んだ部分。吉野材は、この赤身の色が良いのが特長。



## 四方枳 (シホウマサ) |

4材面が枳目であること。化粧的価値が高い。



対面二方柁 (タイムンニハウマサ) | 対面する2材面が柁目であること。



柁目 (マサメ) | 丸太の中心に向かって取る、年輪が平行な木目。



中空 (ナカモク) | 中央部分が板目で、両端部分が柁目の木目。



板目 (イタメ) | 丸太の中心からずれて取る、年輪が山形や筒型の木目。

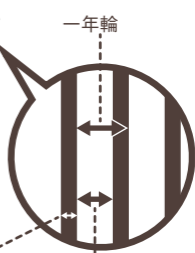
# 木の見方

木口(コグチ) |  
木材の繊維方向に  
直角に切った断面。

生節(イキブシ) |  
枝が生きているうちに  
幹に巻き込まれた枝の跡。



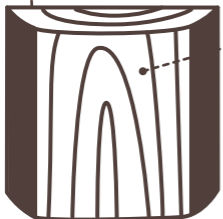
死節(シニブシ) |  
枝が枯れてから  
幹に巻き込まれた枝の跡。  
節穴となる場合がある。



晩材(バンザイ)  
(冬目) |  
夏から秋に成長する部材。夏目より色が濃く、硬い。

早材(ソウザイ)  
(夏目) |  
春に成長する部材。色が淡く柔らかい。

木裏(キウラ) |  
髓に近い側。



木表(キオモテ) |  
樹皮に近い側の板目面。板目板は、乾燥の過程で木表側を上にして凹状に戻る。

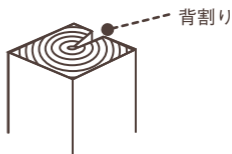


## 木の水分

伐採したばかりの木は多くの水分を含み、そのまま使うと、割れたり、縮んだり、ねじれたりする。そのため、木材を乾燥させることで、木材に含まれる水分の割合〔含水率〕というを低い状態にすることが重要。

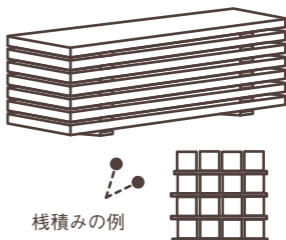
### 背割り(セワリ) |

芯持ち材などにおいて、乾燥による割れ等の防止や軽減のため、化粧的価値の低い材面において、適度な深さの溝を入れること。



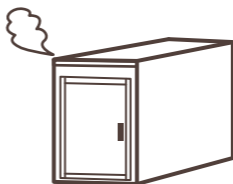
### 天然乾燥 |

木材を屋外に長期間積積み、または立て掛けるなどして乾燥させる方法。自然条件に乾燥具合が左右される。日本の気候ではどんなに長く天然乾燥させても、含水率は15%以下にはならないといわれている。



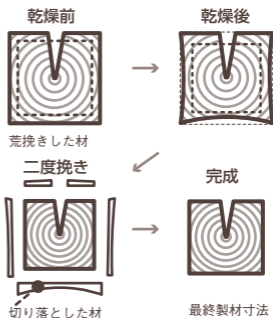
### 人工乾燥 |

機械を用いて人為的に温湿度管理を行い、割れ等の発生を抑制しながら乾燥を促進させる方法。燃料として石油を使うものや、木くずを使うものがある。長さ4mから12mまで対応する機械もある。



### 二度挽き(ニドビキ) |

木を製材して乾燥させると、乾燥前には見られなかった収縮や狂いが生じる場合がある。そのため、所定の寸法より大きめ〔分増し〕というに挽いて乾燥させ、狂いを出し切ってから再び製材すること。

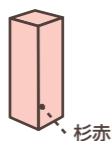


### 歩留まり(ブドマリ) |

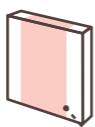
原材料から生産される製品の材積(P.25)の割合。原木から製材品を挽いた時、歩留まりはだいたい50%程度になると言われている。製品とならない部分が半分あるということ。

## 製品の種類

### 素材の活かし方による違い



杉赤



源平

**無垢材(ムクザイ)** | 積層や接着がほどこされていない素材やその状態。

**源平(ゲンベイ)** | 白太と赤身が混在している板等のこと。



集成材



フィンガー  
ジョイント

**集成材(シュウセイザイ)** | 一般に厚さ5cm以下のひき板(「ラミナ」という)を複数枚積層して接着した材料。構造用と表面に化粧単板を張った造作用がある。

**フィンガージョイント** | 木材を縦方向に接合する縦継ぎの一つ。節や腐れ等の欠点を除いた短い板を活用できる。

### 使われ方による違い



**梁・桁(ハリ・ケタ)** | 横づかいにして、建築物を支える部材。



**柱** | 材を垂直に立てて建築物を支える部材。



**造作材(ゾウサクザイ)** | 柱、梁等の主要構造部分以外の仕上げの部材。



フローリング材



カウンター材



**絞り丸太(シボリマルタ)** | 床柱用に使われる丸太。

### 化粧的価値による違い



**無節(ムブシ)** | 節がないこと。

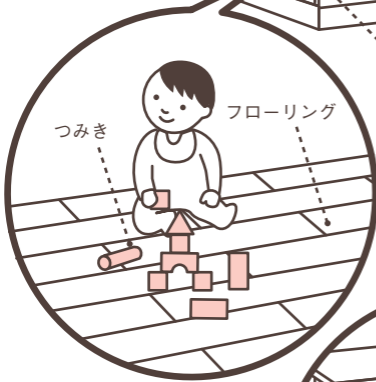
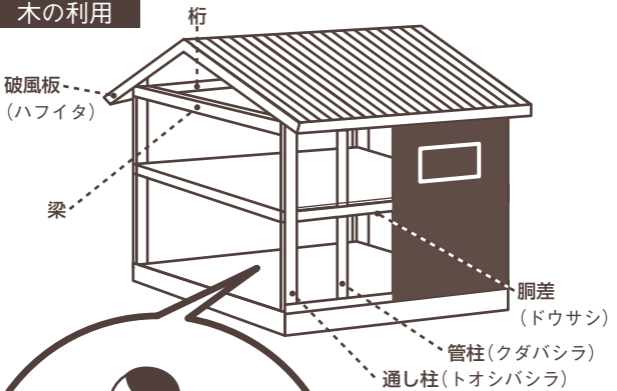


**上小節(ジョウコブシ)** | 小さな目立たない節があること。



**一等材料(イツトウザイ)** | 上小節よりも大きい節が多くあること。

# 木の利用





## 刻印



原木市場に並ぶ材の木口には、刻印が押されていることがある。誰の山から出た材なのかを証明する印。

この刻印を見て、「この山の木ならば、良い木だな」など購入する時の判断の一つにもなる。

## 記号



(例1)



製品市場における製品には、等級や寸法を表示した記号が記されている。これらの記号は統一された表記方法があるわけではなく、さまざまな方法で製品の魅力を伝えている。

(例1)

線で材面を表し、「上」「ム」という言葉で化粧的価値を表している。左から「三面上小節」、中央「対面無節」、右「カネ無節」。

(例2)



(例2)

左から「特別に良い材」、右「四面無節」。

(例3)



(例3)

左から「二面無節かつ二面上小節」、右「木口の一辺が14cm(140mm)、24cm(240mm)、長さが4m66cm(4660mm)」。

## 売付票

売付票	
第510区市一般市 市券番号	1
品名	寸法
4.7m 特 造作 9.50 x 45.0	特上小
合計	1 体積 0.2009
単価 m <sup>3</sup>	
買方	
荷主 ○○製材	
富野材センター	

## ウグイス |

製品に貼られた売付票のこと。等級、材種、用途、寸法、体積、荷主などが記されている。競りで落とされると、落とされた金額と買い方番号が記載される(市場により様式は異なる)。

## 木を測る

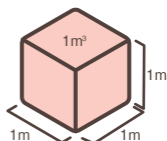
### 原木の直径

原木の直径を測る時は、末口を基準に測る。なお、原木市場で表記されている直径は、樹皮を除く最少直径を2cm単位で切り捨てて表している。

(例)直径24.0cm~25.9cmの内であれば、「24cm」と表す。

### 材積

材木の体積のことを「材積」と呼び、単位は立方メートル単位(m<sup>3</sup>)を用いる。材積の計算方法は、末口直径の二乗×丸太の長さ。



(例)末口直径24cm、長さ4mの吉野材の材積は  
 $0.24 \times 0.24 \times 4 = 0.23 \text{ m}^3$ 。

仮に、この吉野材の価格が5万円/m<sup>3</sup>だとすると、その丸太1本の価格は、  
 $0.23 \times 50,000 \text{ 円} = 11,520 \text{ 円}$ 。



※材積は、m<sup>3</sup>以外に、石(コク)を用いることがある。  
1石=0.2783m<sup>3</sup>

### 尺寸

長さや厚さを表すには「尺寸」の単位を用いる。

一寸=約3.03cm



一寸(イッスン) | 約3.03cm。「4寸角(=12角cm)の柱が欲しい!」など、木口の一辺の長さを表すとき等に用いる。

一尺(イッシャク) | 約30.3cm。「10尺(=3m)の長さの柱で!」など、材の長さを表すとき等に用いる。

一分(イチブ) | 約3mm。「厚さ5分(=15mm)のフローリング板がほしい!」など、板の厚みを表すとき等に用いる。

### 指数字

市の際、買い方は指数字を用いて欲しい値段を振り子に伝える。



5の手の形で横に振ると「5万5千円」を表す。

あ	赤身	18
	アゴ	17
	アサリ	17
	アツイ	2
	アテ	5
い	生節	20
	板目	19
	イチネンコ	6
	一の枝	5
	一番刈	6
	一番木 → 太郎木	
	一番玉 → 元玉 (モトダマ)	
	一工	8
	一等材	22
	一本梯子	6
	イテワレ → もめ割	
う	ウイギリ → 初選り (ウイスグリ)	
	初選り	6
	植え付け	6
	ウグイス	24
	受	10
	ウスイ	2
	空洞	4
	ウトギ → 空洞 (ウト)	6
	売落	9
え	枝打ち	6
	エダバンジャク	5
お	追	10
	オオ → ヲ (尾)	
	おーい	11
	横領	2
	落ち木 → シタコ	
	帯鋸製材機	17
	陰地	2
	オトシタ	14
か	買い方	14
	買い方番号	14
	カイセンブシ → ヒデンブシ	

カウンター材	22
書付	11
頭木 → 太郎木	
カスガイ	17
架線集材	13
片枝	5
カタギ	13
滑車	10
株	10
カマ	16
皮むき	16
皮むき機	16
含水率	21
間伐	6
<b>き</b> キイテル	15
木裏	20
木表	20
木どり	18
<b>く</b> 管柱	23
クボンダ → タワ	
雲透	2
<b>け</b> 形成層	18
ケズリガマ	8
環引	13
桁 → 梁	
源平	22
原木市	14
<b>こ</b> コアゲ	14
コウタ → オトシタ	
古木山	7
小切り → 先山(サキヤマ)	
石	25
刻印	9・24
刻印壺	9
木口	20
小苗	7
<b>さ</b> 材積	25
際面	11

	逆伐	11
	迫	2
	先山	12
	サシナレ	9
	尺縄 → マワシヅナ	
	指し廻し	9
<b>し</b>	地明	6
	地拵え → 地明 (ジアケ)	
	下草刈り	6
	シタコ	4
	死節	20
	四方杵	18
	絞り丸太	22
	尺寸	25
	シャレ	4
	集成材	22
	修理	6
	守頭	8
	上小節	22
	小山	7
	除伐	6
	白太	18
	ジン → シャレ	
	人工乾燥	21
	心材 → 赤身	
	芯去り材	19
	芯持ち材	19
<b>す</b>	髓	19
	末	12
	捨伐	6
<b>せ</b>	製材	16
	背板	15
	背板市	15
	製品市	15
	背中	17
	蟬膚	4
	背割り	21
	選木	14
<b>そ</b>	送材車	16

早材	20
造作材	22
底	17
<b>た</b> ダイオオ	
大将木 → 太郎木	
対面二方桎	19
出し	12
ダズ	4
タチアガリ	2
立木	11
太郎木	11
タワ	2
単板・フリッチ市	15
単板	15
<b>ち</b> チェーンソー	10
中木	7
帳合	9
貯木	3
チルホール	11
<b>つ</b> 塚	6
ツツ	12
坪刈	6
積	9
<b>て</b> テッポウダイ	5
天然乾燥	21
<b>と</b> 銅差	23
通し柱	23
トグワ	6
環	13
土場	13
トビ	12
<b>な</b> 中杣	19
茄子伐	6
ナタ	8
夏目 → 早材	20
<b>に</b> 二度挽き	21
荷主	15
<b>ぬ</b> 抜け	2
<b>ね</b> 捻木	4
ネング → 歩口	

の	ノコ	8
	登伐	11
は	ぱーん	11
	白線帯	18
	ハグツ	8
	ハサミザシ	12
	柱	22
	ハチクライ	4
	鉢巻落し	4
	ハナトリ	16
	破風板	23
	浜	15
	浜問屋	15
	ハラオシ	17
	梁	22
	針木 → ヒデンプシ	
	半工	8
	晩材	20
	盤台	12
ひ	火入れ	6
	引合	9
	ひっこつぼ	3
	ヒデンプシ	4
	日向	22
	紐打	6
	日雇	8
	日雇賃	8
ふ	撫育	6
	フィンガージョイント	22
	歩口	9
	歩留まり	21
	冬目→晩材	
	振り子	14
	フリッチ材	15
	フローリング材	22
へ	ヘッドブロック	17
	ヘラ	16
	辺り木	5
	へり集材	13

	ヘリポート	13
	辺材 → 白太	
<b>ほ</b>	棒木山	7
	ほーつぼー	11
	ほーほい	10
	ホラクリヤマ	4
<b>ま</b>	間植	6
	柁目	19
	マミ	5
	マワシガマ	8
	マワシヅナ	9
<b>み</b>	身拵	8
	見積もり → 積 (ツモリ)	
<b>む</b>	無垢材	22
	無節	22
<b>め</b>	目合い	18
	目立て	17
	メンツ	8
<b>も</b>	元	12
	モトオチ → モトニナッテイル	
	元返	12
	元玉	12
	もめ割	4
	モトニナッテイル	14
<b>や</b>	矢立	9
	山集	12
	山行き	8
	山旦那	8
	山手	9
	ヤマネング → 歩口	
	山守	8
	山守賃	8
<b>ゆ</b>	指数字	25
	ユリワレ → もめ割れ	
<b>よ</b>	ヨキ	8
<b>ろ</b>	ローズ → シタコ	
	劣樹伐	6
<b>を</b>	尾	2
	ヲチガイ	8



## おわりに

このリーフレットの編纂に関わる私たちは3年前まで、木表も木裏もわからない、「間伐」と聞けば「干ばつ」と変換されるような“林業素人”でした。

そんな私たちが吉野の山に入り、言葉を知り、歴史の深さや、素材の良さに触れ、少しでも多くの人にこの魅力を届けようと、リーフレットを作るに至りました。

吉野林業の魅力たるや、底知れぬものがあります。現場の検証や、聞き取りに、林業従事者・製材業者の方々にご協力いただき本リーフレットが完成しました。この場を借りてお礼を申し上げます。

絵ことばブック 編集部

### 【参考文献】

- ・清光林業創立50周年記念事業推進委員会 編(2000年)『調和：明日の林業に向けて』清光林業株式会社
- ・ちょブック製作委員会(2014年)『ちょぼくブック』一般社団法人吉野ビジターズビューロー
- ・奈良県立民族博物館編(2007年)『木を育て、山に生きる：吉野・山林利用の民俗誌』奈良県立民俗博物館
- ・奈良県林業試験場木材加工技術ハンドブック編集委員会(1991)『木材加工技術ハンドブック』奈良県林業試験場
- ・木材・樹木用語研究会(2004)『木材・樹木用語辞典』井上書院

### 編集・制作

「奈良の木づかい運動」実行委員会

(会 員)

奈良県・奈良森林管理事務所・奈良水源林整備事務所・  
奈良県木材協同組合連合会・奈良県森林組合連合会・株式会社南都銀行・  
奈良県木材青年経営者協議会

(企画立案部会)

吉野町・大淀町・下市町・黒滝村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村

文章・コーディネーター 早稲田緑(川上村地域支援員)

イラスト 橋元美穂(吉野町地域おこし協力隊)

### 協力(順不同)

乾紗太男さん(イヌイ木工)、玉井久勝さん(玉井林業)、  
辻谷達雄さん、吉野材センターの皆さん

※本頁は、初版の原稿を使用しています。

初版 第一刷 平成29年3月 発行「奈良の木づかい実行委員会」

二版 第一刷 令和元年11月 発行「奈良県奈良の木ブランド課」

このリーフレットは、奈良県森林環境税を活用して製作しています。

